

旭川市の誇り！岩村 通俊

常磐公園には岩村通俊（いわむらみちと）の像が設置されています（写真①）。岩村通俊さんは初代北海道庁長官で、「旭川を作ろう」と言った人です。手には巻物を持っています。巻物には「旭川を作りたい」という強い思いや願いが書かれています。常磐公園の岩村通俊の像は、これまでに三回も作り変えられています。一代目は鉄、2代目はコンクリート、今はブロンズでできています。一代目は戦争の武器にするために溶かしました。二代目は劣化したので、三代目のブロンズの像を新たに作りました。このように、三回も作り変えられていることは珍しいです。それほど岩村通俊さんは、旭川市民にとって大切な存在であり、多くの人たちに愛されているのでしょう。

私たちも、授業で岩村通俊さんについて勉強してきたので大好きになりました。そして、自分たちが住む旭川市を大切に思う気持ちが高まりました。つまり、岩村通俊さんについて知ると、旭川市が大好きになると言えます。

ですから、みなさんも岩村通俊の像を見に来てください。また、常磐公園に設置してある彫刻のことを知って、旭川市のことをもっと好きになってください。



【写真①】 岩村 通俊の像

季節によって見え方が変わる「行列」

「行列」という彫刻は季節によって見え方が変わります。夏は、たくさんの方がスイカの上に並んでいるように見えます（写真②）。冬は地面に雪が積もるので、人が船に乗っているように見えます（写真③）。

「行列」のような季節ごとに見え方が変わる彫刻は他にもあります。つまり、常磐公園は一年中、彫刻鑑賞を楽しめる場所とも言えるのです。このような楽しみ方ができる公園はとても珍しいと思います。

「行列」の作者である三木俊治（みき としはる）さんはインドで見た行列に影響されてこの作品を作ったそうです。三木俊治さんは、国内外で「行列」のシリーズを制作し続けています。

公園にある彫刻に目を向けることで、常磐公園の魅力をもっと感じることができると思っています。



【写真②】「行列」（夏）



【写真③】「行列」（冬）
旭川市彫刻美術館所蔵

旭川市には彫刻が百基以上

旭川市には彫刻が百基以上あります。彫刻がたくさん設置されているので「彫刻のまち」と言われています。そのうちの十基が常磐公園にあります。写真④は、中原悌二郎賞をとっている作品「生きる」です。作者は空充秋（そら みつあき）さんです。

常磐公園に十基の彫刻があるということは、この公園を芸術に触れられる場にしようと考えたからだと思います。また、常磐公園は百年以上の歴史があり、多くの人たちがこの公園を利用してきました。市民に大切にされ続けている場所なので、彫刻を設置したとも考えられます。

常磐公園の彫刻は、一つ一つに作者の熱い思いが込められています。みなさんも作者の情熱を感じ、常磐公園に足を運んでみてください。



【写真④】「生きる」

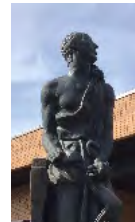
常磐公園にある三基の彫刻

常磐公園には十基の彫刻があります。その中から、私たちがお気に入りの彫刻を三基紹介します。一つめは「人間の森」（写真⑤）、二つめは「雄弁」（写真⑥）、三つめは「地」（写真⑦）です。



【写真⑤】「人間の森」

「人間の森」は人が重なりあって、天にエネルギーを発しているように見えます。角度を変えて見ると、いろいろなものに見えます。にぎやかな作品です。作者はオシップ・ザッキンさんです。



【写真⑥】「雄弁」

「雄弁」は北海道各地にいろいろなシリーズがあります。例えば、札幌に「力」、帯広に「勝利」、函館に「自由」、そして旭川に「雄弁」があります。全てエミール=アントワヌ・プーデルさんが作りました。



【写真⑦】「地」

「地」という作品は「ほそ組」という作り方で作っています。この作品は日時計になります。作者は空充秋（そら みつあき）さんです。

編集後記

私たちは最初、常磐公園は普通の公園だと思っていました。でも、動画や新聞製作のために何度も足を運ぶことを通して、常磐公園の見え方が変わりました。見え方が変わったことで、この場所は「人の思いや願い」がたくさん詰まったところだと気付くことができました。そして、この公園が大好きになりました。

「旭川を作ろう」といった岩村通俊さんの像が常磐公園に置かれていること、彫刻にはブロンズなどいろいろな素材があること、常磐公園には十基の彫刻があることなど、今回の新聞で紹介した内容は、どれも私たちが宝物の情報です。常磐公園に何度も足を運べば、みなさんもきっとこの公園が大好きになるはずです。まずは、私たちが紹介した彫刻を見に、常磐公園に足を運んでみてください。